

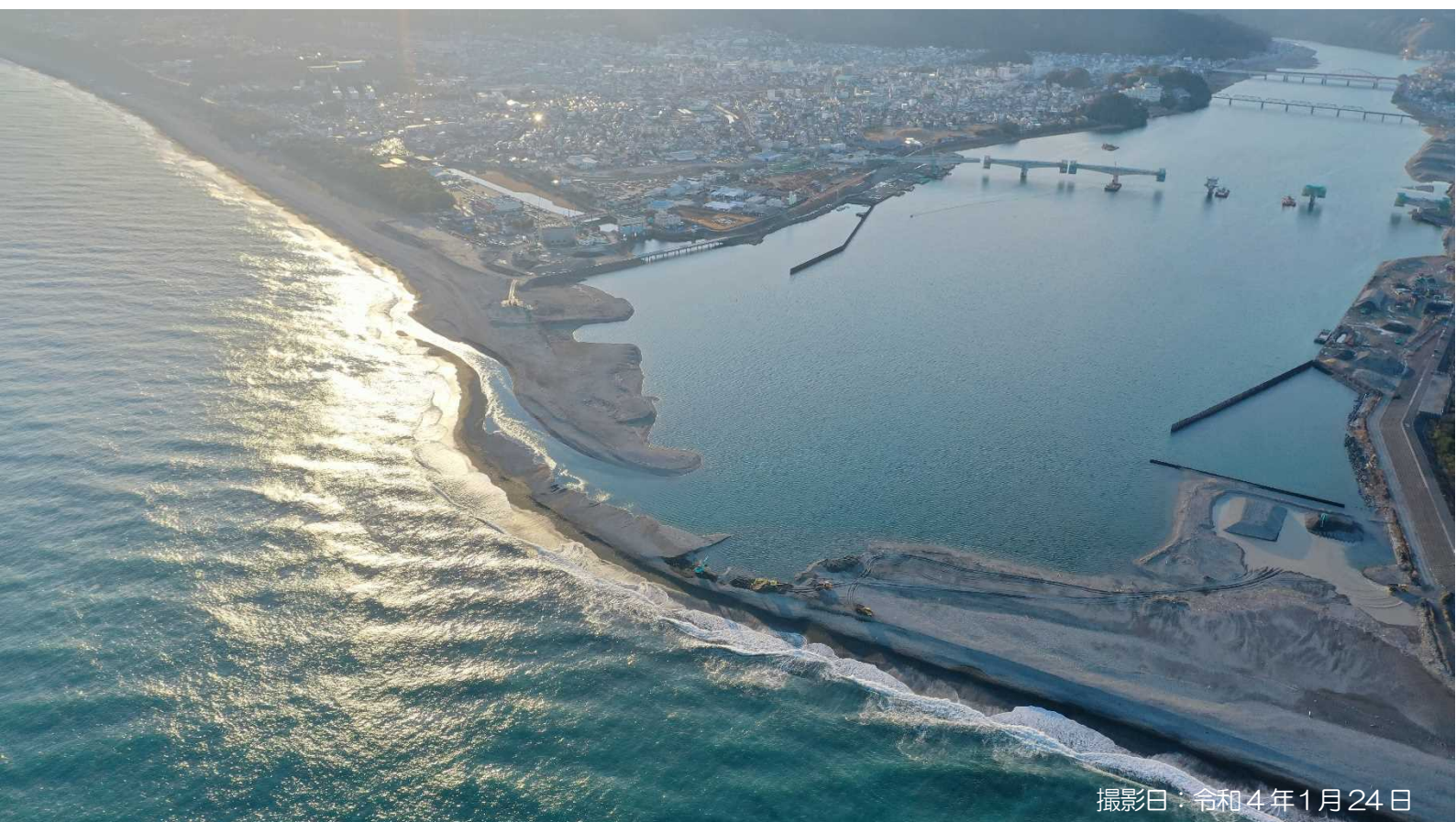
閲覧用



熊野川懇談会ニュース

新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）を公表

第17回熊野川懇談会を開催



撮影日：令和4年1月24日

Contents

- 第17回懇談会の概要
- 熊野川懇談会へのご意見受付方法・資料入手方法

No.18
2022年1月発行

第17回熊野川懇談会が開催されました

第17回熊野川懇談会が開催され、令和3年12月15日に公表した「新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）」の概要、関係住民の意見聴取方法について説明し、意見交換を行った。

第17回熊野川懇談会の主な内容は以下のとおりです。

<第17回 熊野川懇談会の概要>

◆ 開催日・場所

- 開催日：令和3年12月18日（土）
- 開催方法：対面及びオンラインの併用
（Youtubeでのライブ配信を実施）
- 参加者：懇談会委員 12名 3名欠席
河川管理者等 7名



■ 第17回熊野川懇談会の様子

◆ 議事内容

1. 「新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）」について

「新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）」について、本文の目次構成に沿って、(1章)流域および河川の概要、(2章)河川整備の現状と課題、(3章)河川整備計画の目標に関する事項、(4章)河川整備の実施に関する事項、(5章)その他河川整備を総合的に行うために必要な事項を説明し、意見交換を行った。

(委員からの主なご意見)

■ 委員からの意見

- P15で昭和34年の伊勢湾台風で19,000m³/sの出水があったことから、19,000m³/sで計画をたてたが、50年たった平成16年の洪水が11,000m³/sで洪水被害が発生している。それに対し、P14で「施設では守り切れない大洪水は必ず発生する」といった突き放した書き方となっている。今度、24,000m³/sにして30年後に24,000m³/sが流れているのだろうか。目指しているものと現実との乖離を説明したほうがよい。(横田委員)
- P64で「相賀において22,000m³/sの流量を安全に流下させる」と記載がある箇所について、今どこにいて、30年先に22,000m³/s流せるように、これから計画に向かって進めていくというふうに書いていただくと分かりやすい。その先に、22,000m³/sから23,000m³/s、残りの1,000m³/sをどうするのかは流域治水ともあるので、アイデアがあるなら書いてほしい。(立川委員)
- ダムについて、基本方針で24,000m³/sを目標にしている、河道で23,000m³/s、残りの1,000m³/sはダム等で対応するというのだが、この記述では22,000m³/sまでを河道で流して、24,000m³/sに対してはダムで対応するというので、2,000m³/sはダムで何かするというふうを考えているということなのか。このあたりの基本方針との数値のずれがよく分からないところで、そこを分かりやすく書いたほうがよい。あわせて、ダムの計画としては、どれだけの量を事前放流で見ている、どれだけの量を施設改造等によって将来的に考えていけるかということまで計画としてあるなら記載すると分かりやすいと思う。(立川委員)
- P74にデジタルトランスフォーメーションという言葉がでてくるが、情報の一元化をして何がしたいのかを書くべきである。(横田委員)
- H23～R 元年のグラフで堆積傾向である4.4km付近が、その前のH20～H23年では侵食傾向にある。これは、H20～H23年に侵食されていたものが、H23～R 元年に回復したということか。これは絶対的な高さということではないということか。(井伊委員)
- 整備計画にはデータを載せるが、全て載せるわけにはいかないもので、現状を表しているものを載せている。土砂管理には、このようなデータが重要だという井伊委員の意見でしたが、事務所はデータの活用についてはどのように考えていますか。(藤田委員長)
- P41の図についてはP37に少し解説されているが、変化の傾向を端的に説明していくような表現に修正してほしい。(藤田委員長)

■P73の「既存ダム等による洪水調節機能の強化」に記載されている運用の変更に含まれるかもしれないが、たくさんあるダム群の統合運用というようなこと、それを最適化していくというようなことも考えられるので、適切なダム群の統合運用というようなことも記載するとよいと思う。

もちろん全面できるということじゃなくて、例えば運用の変更の前に、適切なダム群の統合運用を含めた運用の変更ということを入れることはできないですか。(松尾委員)

■P52の「河川空間の利用」で「利用の促進をするための改善が必要である」で終わっているが、これをうたうのであれば、同時に利用者の安全に対する配慮みたいなものも考慮すべきであることを加えたほうが良いと思う。(高須委員)

2. 関係住民の意見聴取方法について

関係住民意見の聴取は、流域3県における公聴会、書面、及びインターネットを用いたパブリックコメントにより実施することが確認された。

(委員からの主なご意見)

■委員からの意見

■今後のスケジュールについて、パブリックコメントでどんな意見が出ているのかも参考になと思う。(井伊委員)

■本日の意見と対応について、一覧表等にまとめてもらいたい。(藤田委員長)

3. その他

第17回熊野川懇談会のニュースレターについては、閲覧用の設置のみとし、配布は行わないことが確認された。

【懇談会へのご意見受付方法】

ホームページ
による受付

熊野川懇談会に関するご意見等は「熊野川懇談会」のホームページの「ご意見」のバナーをクリックしていただくと「熊野川懇談会へのご意見等」のページが開きますので、「意見を送る」をクリックしていただき、ご意見等をお寄せください

熊野川懇談会ホームページ

https://www.kkr.mitgo.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html



FAX・原稿送付
による受付

FAX をご利用の場合、または原稿送付の場合は以下の連絡先にご連絡ください。

【連絡先】熊野川懇談会 庶務

三井共同建設コンサルタント株式会社

(担当：豊島・楠・升水・牧野)

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-900号

大阪バイタワーオフィス9階 FAX：06-6599-6050

【資料入手方法】

ホームページ
による入手

懇談会資料は、熊野川懇談会ホームページよりダウンロードできます。

熊野川懇談会ホームページ

https://www.kkr.mitgo.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html



熊野川懇談会ニュース No.18

【編集・発行】熊野川懇談会 2022年1月発行

【連絡先】熊野川懇談会 庶務

三井共同建設コンサルタント(株) (担当：豊島・楠・升水・牧野)

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-900号 大阪バイタワーオフィス9階

Tel: 06-6599-6024 FAX: 06-6599-6050

熊野川懇談会ホームページアドレス https://www.kkr.mitgo.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html

※メールにつきましては、ホームページの「ご意見等」をご利用ください。